

ノンテクニカルスキルと生成系 AI の出会いと発展

—AI と共生する医療現場のあるべき姿を描くために—

◎佐藤 和弘¹⁾
メディカルアートディレクター¹⁾

「遂に、AI がノンテクニカルスキルを発揮できる時代が来た。」

昨今、話題となっている生成 AI（生成系 AI）の登場を通じて、筆者はこのように考えている。

医療者に必要なスキルは2種類に分けることができる。1つはテクニカルスキル（専門技術）であり、もう1つはノンテクニカルスキル（非専門技術）である。ノンテクニカルスキルは、言葉（や行動）で人（や組織）を動かす世界だと言えるが、人間のように自然な会話ができる生成 AI が登場したことによって、人間と生成 AI が協働してノンテクニカルスキルを発揮するという医療現場のあるべき姿を描くことができるようになった。このように、ノンテクニカルスキルと生成 AI は、「言葉」という共通点を通じて、密接に関係していると言える。一方で、大事なことは、どのように人間と生成 AI が協働してノンテクニカルスキルを発揮していくのかを考えること、言い換えれば、AI と共生する医療現場のあるべき姿を映像レベルで具体的に描いていくことである。このことに関して、筆者が提案しているのが、生成 AI を活用した「問題解決プランの作成の（半）自動化」である。

筆者は、テクニカルスキル以外のあらゆるスキルの総称であるノンテクニカルスキルを「組織で問題解決する技術」と表現し、「考える力」「伝える力」「決める力」「動かす力」の4つの領域に分けてとらえている。問題解決とは「あるべき姿と現状のギャップを埋める」ことを意味しているが、医療現場のあらゆる業務は、その場面における何かしらのあるべき姿と現状のギャップを埋めるために行っていると考えてみると、どのスタッフにおいても問題解決は身近な出来事であることがわかる。また、問題解決は、悪い問題を解決する「問題発見型」と良い問題を解決する「問題設定型」の2種類に分けることができ、医療現場においては、前者だけでなく後者の問題解決も行っていくことが大切である。

では、具体的に、どのような考え方を基に問題解決プランを作成していくのか。それは、筆者が「問題解決の六大大陸（世界地図）」と呼んでいる、「目的」「現状」「あるべき姿」「問題（What）」「原因（Why）」「対策（How）」の6つの論点（大陸）で整理する考え方である。そして、ここで AI と共生する医療現場のあるべき姿が見えてくる。これまでは、この問題解決の六大大陸（世界地図）を基にした問題解決プランは、人間が作成することが前提にあった。しかし、これからは、生成 AI にもこの考え方を基に問題解決プランを作成してもらうのである。具体的には、スタッフが目的と現状に関する情報を入力し、それらの情報に基づいて、生成 AI にあるべき姿、問題、原因、対策に関する情報を生成（出力）してもらうということの意味する。これが、生成 AI を活用した問題解決プランの作成の（半）自動化である。

そして、このようなあるべき姿を描くうえでも大事なことは、生成 AI を使う目的を押さえておくことである。その目的とは、「正しい答えを得る」のではなく、「（人間が）考えるための選択肢を増やす」ということである。筆者は「選択肢は力」だと考えているが、前述した問題解決プランにおいても、生成 AI が生成（出力）したあるべき姿、問題、原因、対策に関する情報を、正しい答えとしてとらえるのではなく、あくまでもスタッフが考えるための選択肢ととらえ、より自施設（自組織）に適した内容に整理していくのである。

本講演では、これらのことについて触れた上で、生成 AI にノンテクニカルスキルを発揮してもらう具体例を紹介しながら、AI と共生する医療現場のあるべき姿を、ご聴講いただく皆様と描いていきたい。

連絡先-電話番号：k.sato@medi-pro.org 090-8385-8264